

## 第89回麻布獣医学会 一般演題12

## 御殿場市における「飼い主のいない猫対策」の試み ～地域住民・ボランティア・行政の三者協働の実現～

田中 恵美<sup>1</sup>, 榊原 康江<sup>2</sup>, 高橋 真<sup>3</sup>,  
齋藤 俊夫<sup>4</sup>, 立道 佳哲<sup>5</sup>, 杉山 貴浩<sup>5</sup>

<sup>1</sup> 静岡県御殿場健康福祉センター, <sup>2</sup> 静岡県東部健康福祉センター,  
<sup>3</sup> 静岡県環境衛生科学研究所, <sup>4</sup> 静岡県富士健康福祉センター, <sup>5</sup> 御殿場市

### 1 はじめに

平成24年9月「動物の愛護及び管理に関する法律」の一部が改正され、その付帯決議には、野良猫など飼い主のいない猫に対して、「地域猫対策実施の推進」が明示された。静岡県内でも対策は各地域で行われており、静岡県「飼い主のいない猫管理マニュアル（試行版）」に基づき行政もその活動を支援している。しかし、それはボランティアを中心に実施する内容で、地域猫対策に協力するボランティアがいない地域には導入が難しい。当所管内では、過去に地域猫対策の実施事例はなく、地域住民、ボランティアおよび行政において地域猫対策について熟知している人材はいなかった。そのような状況から開始した対策について報告する。

### 2 対策の概要

地域の実態調査を行い対策地域を絞り込み、県外で活動しているボランティアを講師とした研修会を開催した。さらに活動初期にはTNRおよび猫用トイレの設置作業を行政がボランティアと共に実施した。自治会は地域住民とボランティアのトラブル防止のために、広報活動を積極的に行い、同時に捨て猫防止パトロールを定期的に行った。最終的には、ボランティアが活動の主体となり、自治会および行政はその活動環境の整備をしている。一部の地域で始まったこの対策が周辺地域に広がり、平成24年9月から平成26年8月までの2年間で計199匹にTNRを実施して、当初

はいなかったボランティアや地域協力者は54人に増加している。

### 3 結果および考察

開始当初、対策の効果は5年～10年先と考えていたが、すぐに「街がきれいになった」と感想が地域住民から寄せられるようになった。理由は、①餌やりを認めたため、餌やり人が時間をかけて餌場とその付近の清掃ができる。②猫用トイレの設置により糞害が軽減した。③TNRの実施を広報することで外飼いの猫が減った。などが上げられている。

また、対策をしたのは当所管内の一部の地域だが、管内全域から「自分で餌を与えている猫にTNRをしたいがどうしたらよいか、地域猫対策をやるにはどうしたらよいか」等の相談が増えた。また、猫の引取り頭数は半減している。これは、対策を積極的に広報したため、飼い主のいない猫に関わっている住民が解決する方法を知り、自ら実践していることが原因だと思われる。

今回の対策は行政が関わり開始したが、徐々に地域住民が飼い主のいない猫に関心を持ち協力者が増加し、「地域住民が主となる活動」に移行した。今後、地域猫対策を広げるためには、継続した行政の支援が必要とされる。費用の助成を含むボランティア活動環境の整備の支援と共に、地域猫対策の主旨を理解し地域住民に伝える役割となる人を育成することが大切だと考える。

殺処分数の減少・苦情の減少・ボランティア活動の  
充実強化は静岡県動物愛護管理推進計画に掲げる施策  
である。効果的な支援をさらに検討し、地域住民・ボ

ランティア・行政が協働する「飼い主のいない猫」対  
策を推進したい。